

＜エッセイ＞
変容するアイドルシーンの10年
—現場文化の視点から—
A Decade of Change in the Idol Scene
—From the Perspective of Fan Culture—

寺田寛明

Hiroaki Terada

ここ20年で「オタク」という言葉の扱いは随分と変わったと思う。

普通に蔑称だった気がするし、もっと「暗い」「コミュ障」「服がダサイ」「軟弱」「臭い」のようなネガティブなイメージと共に語られる存在だった。

私がアイドルを見に行くようになって10年。在宅も含めると20年。

自分が見てきたアイドル現場にいる人たちは、ちゃんとしてそうな人が多い。オシャレな人も若い人も多い。信じられない高さまでリフトされてる人とかいて陽気に見える。あとみんな強く、この暑さの夏フェスでぜんぜん死なない。臭い日はある。

「推し活」というフレーズが一般化し、今や誰もが何かしらのオタク、と言えなくもない時代。

人々は自らをオタクと称することになんら抵抗はないように見える。

私はというと、アイドルをたくさん見ているお笑い芸人。アイドルとお笑いのオタク。こんにちは。

芸能界に限って言えばアイドルライブの数は一番見ている自信はあるが、別に専門家でも関係者でもない。

そんな私が「ここ10年のアイドルシーンの移り変わり」をテーマに文章を書いてほしいとご依頼を頂いたので、たくさん考えた。

本誌のコンセプトに合わせて常体文にしているが、内容はかなり主観的なのでご容赦願いたい。

10年も20年も見ていたら当然、シーンの様子は変わっていく。

シーンというものがどのようにして変わっていくか。私自身ライブで活動している身として言えるのは、演者や制作側がシーンを積極的に変えようと思って実際に変わっていくということはあまりなくて、世の中全体が変わったから対応せざるを得ないというのが実際のところだと思う。

一番大きな変化はSNS時代の到来。

写真や動画がバズればそれをきっかけに売れることができる。

推しをバズらせるという新しい応援の仕方が生まれ、写真の重要性がグンと上がった。

自分の撮った写真がバズって数年後に紅白*でそのポーズしてくれる可能性がある。なんて夢があるんだ。

そんなバズり勝負になったからアイドルは SNS を毎日更新することになって、写真も動画も自分から大量に発信していかななくてはいけなくなった。ついでに、オタクが特典会や撮影可能ライブのときに撮った写真を加工しないで載せるとあり得ないみたいな感じになってきたりして、男からするとわからない感覚すぎてそれに対応しなければいけなくなる。写真を加工して載せてるほうがあり得なさそうなもんなのに。

またその影響なのか、若い女性のファンがつかないと売れないみたいな空気も出始めたから、使ってるメイク道具とか紹介したりして、女性へのリーチも考える必要が出てきた。でも見える範囲にいるおじさんのことも考えなくてはいけない。グループに属していてもアイドルが自分で打ち出し方を考えなければいけない。毎日何かしら発信することが当たり前になってきてしまっているが、継続できてるアイドルたちは本当にすごいと思う。

もちろんアイドル個人だけでなく、アイドル運営も時代に対応しなくてはいけなくなってくる。

TikTok などの縦動画で楽曲をバズらせられるかどうかは、今やアニメのタイアップを取ってくるより大事な突破口かもしれない。

ドパガキという言葉が流行っているように、縦動画というのは興味を持たれないとすぐスワイプされてしまう。YouTube を見るときもサムネイルで判断することが多いと思う。

つまり、令和のコンテンツは1秒以内に興味を持たせないといけない。

わかりやすさ全盛の時代。

とにかくわかりやすくすることが重要になる。

『アイドルライフスターパック』†はその権化と言ってもいい。

あの曲は、パーマ大佐『J-POP の歌詞あるあるの歌』や、岡崎体育『MUSIC VIDEO』と同じライン上にある物だと思うのだが、そこにアイドル現場のフロアというガラパゴスな文化をわかりやすく解説する要素を入れることで外から見るとかなり取っ付きやすかったのだと思う。

ここからの段落は本当に「ジジイが」と思ってもらって構わないのだが、私はどうしても曲中に MIX のフレーズが入っていたりする「メタアイドル楽曲(造語)」を受け入れることができず、アイドル側が MIX 言うの全然うれしくないけどな…と思っていたのだが、どうやらそんなことを気にしてるのは昔からアイドルを見てる一部の人間だけのようで、今考えるとあの曲はゲームチェンジャーだったのだと思う。あんまり関係ないけど、女の子が歌う恋愛の曲だと思ってよくよく聞いてたら内容が男性目線の歌詞だったときも「なんなの？叙述トリック？」と思って

* たとえば、第74回 NHK 紅白歌合戦(2023)における YOASOBI『アイドル』歌唱中における橋本環奈および ano のポーズ再現など。

† iLiFE!の2022年の楽曲。

しまう。オタクが面倒くさいと言われる理由はこういうところ。

さらに余談だが、先日のオールナイトニッポンでキタニタツヤがアイドル対バンに行く初体験を喋ってくれた素晴らしすぎる回があった。音楽を生業にしている人がアイドル楽曲の話をしてくれることにはやはり説得力があり良かったのだが、それよりもライブハウスの雰囲気やそこで見た人々の話に主眼を置いていたのがとても良かった。これもアイドルライフスターターパックの成功に通ずる部分があると思っていて、実はアイドルを勧めるときはアイドルそのものよりも現場の楽しさの話をすべきなのかもしれない。我々が楽しそうにしている必要がある。

話を戻すと、そんな世の中なので当然楽曲やコンセプトもわかりやすいものが求められ、「めっちゃアイドルっぽいことやります!」か「アイドルなのにこんなことします!」の両極に振ったものがウケる。ウケるというか、流行るというのはつまりみんなが真似したくなるということなので、「私はこれが好きなんだけどな」というものを tiktok とかでやっても伝わらないし動画が回らないから意味がないみたいなどころがあると思う。今のアイドル業界は、エンタの神様が大人気になって芸人たちがみんなプライドを捨てて売れるためにフレーズ芸に手を出していったあの時期のお笑い界に似ている。アイドル流行ってる。

一方、私はアイドルオタクの中でも、いわゆる楽曲派と呼ばれる界限をよく見に行っている。「楽曲派」という言葉の定義の話とかはもういいじゃないですか。いわゆる王道楽曲より、変な曲やってる方が好きという話だ。王道をある程度見てきて慣れて、少し変わったことをやってる方に惹かれるというのもあるし、売れてるグループに似せた曲をわざわざ作るグループにもなんでなんだと思うってしまうので元々そういう性格なんだと思う。しかし、私が好きなグループの楽曲は、なかなか世間に見つからない。

わかりやすいものに人が集まるというのはエンターテインメントの世界においては常で、わかりづらいものや理解に時間がかかるものが数字の上でわかりやすいものに勝つという現象はなかなか起こらない。それ自体は仕方ない。私は、それ以外に問題に思うことがある。

アイドルシーンの変化と言われて私が真っ先に思う浮かべるのが、日本最大のアイドルフェス「Tokyo Idol Festival (通称 TIF)」のことだ。

私は毎年、TIF を3日間、灼熱のお台場で朝から晩まで見続けるという、修行、異常行動、アイドルを好きになった罰、など色んな表現の仕方があるそれをするのだが、年を追うごとに3日目が辛くなってきている。「年齢で体力が落ちてきてるんだろ」と思われたことだろうが、そうではないので一旦 OS-1 をしまっしてほしい。似たことをやっているグループが年々増えてきているような気がするのだ。3日間たくさんアイドル見たけど、よく考えると楽曲や衣装の雰囲気が3種類ずつくらいしかなくて、その組み合わせと強弱が違うだけで、やってる人が違うから違うものになってるみたいなのをたくさん見ただけなんじゃないか。体感では全体の7割くらいがそ

れに占められていたのが 2025 年のアイドルフェス。大きいアイドルフェスやサーキットがだいたい同じグループばかり出ているので同じ感想になる。

なんでそんなことになるかという、1 秒で理解できる範囲のわかりやすいことをやらないとそもそも見てもらえないし集客につながらなくて、集客がないグループはフェスに出してもらえないから。

売れることを考えた結果がそれなんだろうから、フェスに出られている個々のグループの活動自体に文句はまったくないが、問題は TIF にその辺のバランス感覚がないことで、集客があるグループを集めているだけなので全体として見たときに味が同じでつまらないと感じる。「3 日間見続ける想定で開催してねーよバカ」と言われたらそれまでなのだが、日本最大のアイドルフェスが、わかりづらいけど面白いことやってるグループを独自に評価できないでどうするんだと思う。今までこの現状に甘んじていたけど、好きなグループが年始に 15 組くらい一気に解散発表して洒落にならなくなってきた。

アイドル界には、本当におもしろいことをやってる実力がある人たちをフックアップしてくれる大きな存在がいらない（以前はこれを「アイドル界には松本人志がいらない」と表現していたが、松本人志という単語の意味が変わったので使えなくなった。）

かつてはそれを「TIF で見つかる」という現象で賄っていた。近年それはもう起こらない。ある程度見つかったグループしか出られないから。

TIF はもうフックアップはできなくなってしまったんですか？変なプラットフォームじゃなくて、YouTube で無料配信とか、できないですか？夢がほしいです。IDOL BATTLE ALIVE であのメンツの中でライブの強さで高評価を勝ち得た“美味しい曖昧”[‡]が出れないってマジですか？もうライブの良さとかどうでも良くて、集客と謎の予選と事務所の強さでしか出演者選ばないんですか？アイドルイベント全般に思うんですけど、対バンって大好きな 1 組がいるから見に行くんじゃないでメンツの組み合わせの良さとかで見に行くと思うんですけど、入り口でお目当て 1 組聞いてそれを集客力だーって言って大丈夫ですか？終日やって 13 時と 18 時頃に見たいグループが 2 組だけいるような長くて高い対バンに行くのを当然として話を進めないでもらっていいですか？行く気のしない組み合わせの予選ばかりやってますけどあれってどうにかならないんですか？

TIF はアイドルリング!!![§]がいたから生まれたアイドルフェスのはずで、私は「アイドルリング!!!」（フジテレビ系列）ほどおもしろいバラエティ番組は知らない（アイドル番組としてではなくすべてのバラエティ番組の中で一番おもしろかった）のに、今の TIF からはそれを感じることができないのが悲しい。自我を感じない。スマイルガーデンで“くま”^{**}に 20 分与えるのは別にぜんぜん良くないけど、そのくらい好き勝手やってくれとも思う。その点でいえば今年の TIF は東京女子プロレスとのコラボがあったりして、その辺はおもしろそうで期待している。

[‡] 2020 年デビューのアイドルグループ。

[§] 2006 年から 2015 年にかけて活動したアイドルグループ。

^{**} 2026 年に楽曲デビューをしたソロアイドル（お笑い芸人 紅しょうが・熊元プロレス）。

思っていたことをかなり書かせて貰ったが、あくまでも私は外側の人間。

ここ何年も TIF の出演者が発表される前から3日通し券を購入し続けている、TIF のオタク。

これさえ見てたら色々な種類のアイドル見れるという場所であったほうが絶対おもしろいし、今後のアイドル業界のためにもなると思う。

俺に影響力なんかないんだ。TIF が助けてください。

アイドルを続けたい人が満足するまでアイドルをやり切れるような、できればもう少し夢が転がっているような、そんなアイドルシーンであってほしいと思うマル

